

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科3年

氏名: 田沼三奈

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ(韓国:慶熙大学校)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修内容としては、慶熙大学の歯科病院で診療科を回り、診療や手術の様子の見学が中心だった。まだ3年生(韓国の大学だと”本科1年生”)なので、臨床内容の授業が始まっておらず、全てを理解するのは難しかった。しかしそのことを事前に説明を担当してくれる先生に伝えた結果、配慮した上で少し噛み砕いた説明をしてくださるので、なんとか必死についていくことができていた。3人ほど日本語が堪能な先生もいらっしやったが、基本的には英語での説明を受け、それに対して英語で応答したり質問する形であった。臨床内容が中心だったため、もし自分が5、6年生だったらもっと専門的な理解や質問をすることができていたと思う。しかし、今回の学習を通してより臨床分野に対しての興味が高まり、将来、自分が歯科医師として高いレベルで活躍するのだという自覚や信念をより強く持つきっかけとなったのではなかったと思う。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>コロナ禍を経て、現在の韓国は日本や中国からの観光客も非常に増えており、観光地では日本語もよく聞こえてきたり、地下鉄などの案内も日本語があるので、ある程度ハングルが読めたり理解できれば特に言語で困ることはなかった。先程も書いたように病院内では基本英語だったが、挨拶やフリートークなどでは韓国語でも会話するタイミングがあった。少しだけではあるがこちらが韓国語を話したりすると「韓国語を話すことができますか?」と明るい表情で喜んでもらったことがすごく印象的に感じた。逆に自分も、たくさん日本に旅行していることや、日本語を少し話せることを聞いたりするととても嬉しくなった。国同士や政治的な問題は非常に難しい面もあるが、私が韓国での滞在で接した韓国の方々には皆優しく温かい人々であったので、母国にいただけではわからないこともあるのだと実感した。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今まで海外旅行の経験はあるが、いつも親と一緒にいたため何も考えずについて行っていただけであった。今回は準備の段階から、研修日程中もずっと自分で手続きや外国での生活でのことを調べたり実行する必要があったので、大変なことも多々あったものの、自立という点や自分で考えて行動する力がかなり身に付いたと思う。また、韓国の病院では病名を書く際に英語や英語の略称をほぼ使っていたことが、研修中で一番苦労したことの一つであったこともあった。普段大学では全ての病名を英語では暗記しないので、今後グローバルに活躍していくためにはそういった専門用語の英語を学んで使いこなしていく必要があるのだと身を持って感じる経験から、これからの大学でのモチベーションアップへとつながったと思う。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>鹿児島県は他の都道府県と比較して特に離島や僻地という側面が強く、また鹿児島大学歯学部でもそういった地域での歯科診療に力を入れていると思う。慶熙大学の社会歯科学の先生とお話する機会があったが、韓国にも無歯科医地域が存在し、そこには「こじか号」のような歯科巡回治療車が赴いて活動していることなどについても話を聞くことができた。また、日本人と韓国人は口に食べる物が似ていることから、口腔内の問題についても類似している点が多いという話も聞くことができた。そういった話を聞くことができたことはとても新鮮だったことから、日本国内だけでなく海外での取り組みとも比較して、より多様な視点から地域社会における歯科的な活動をより発展させるために貢献していきたいと考えた。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科3年

氏名: 竹原彩夏

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ(韓国:慶熙大学校)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>私は研修で、日本と韓国の歯科医療の相違点をたくさん学びました。まず、基本的な設備や治療方法などは日本とほとんど違いはありませんでしたが、一番大きな相違点は、鹿児島大学にはないバイオ急速矯正歯科という科があったことです。この科では、ブラケットをつけなかつたり歯を抜かないようにしたりと、患者さんの歯に優しく、なるべく歯を保存する矯正を目指していました。また、大学病院には見たことがない最新の機械がたくさんありました。頭部の3D写真を撮影することができる機械を見せていただきました。口腔スキャナーやCTの結果と合成することでより治療計画が立てやすくなり、矯正前と矯正後で顔の印象がどう変化するかを患者さんに示すこともできると知りました。最新の機械を取り入れる理由としては、作業時間の短縮が可能になることで患者さんに何度も病院に来てもらう必要がなくなり、患者さんの負担が軽減できるからであるとおっしゃっていたことに感銘を受けました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>現地での生活で気がついたことは、まず大学病院内での身だしなみは、日本ほど厳しくないということです。病院内では、鹿児島大学では実習中に外すように言われているネックレスやピアスなどのアクセサリをつけてまま診療している方や、髪を明るく染めている方が多く見受けられました。これは、文化や価値観の違いなのだろうと感じました。また、病院内では写真を自由に撮らせて頂けたり、カフェで買ったコーヒーを手元に置いて診察や作業をしている先生も見られました。やはり文化の違いもあると思いますが、患者さんからの信頼があるからこそできることではないかと思いました。現地で生活をしてみても気がついたことは、韓国では困っている人を放っておかない人が多いということです。道に迷っている人がいたら自分から近づいて教えに行く人をたくさん見かけました。私自身も、通りすがりの人が服に虫がついていることを教えて、取ってくれました。韓国の人たちの優しさにたくさん触れることができました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>研修前と研修後での変化としては、勉強に対するモチベーションが大幅に上がったことと、もっと色々な国の医療機関を見学してみたいと思ったことです。今回の研修で、治療についてや最新の機械についてなどたくさんのことを説明していただきましたが、まだ授業で習っていないので理解するのが難しいこともありました。これから臨床の授業が始まるのでしっかり学び、知識がついてからもう一度慶熙大学病院の見学をしたいと思います。また、英語でやりとりをする中で、病名などの専門用語を英語で言われた時に理解ができなかった時がありました。これからまた外国の病院を見学したり、外国人の患者さんを診療したりする機会があるかもしれないので、英語も勉強したいと思います。そして、慶熙大学病院での研修を通し、日本の病院との興味深い相違点をたくさん見つけたので、他の国ではまた他の相違点があるのだろうと思い、もっと色々な国に行ってみて見学してみたいと思いました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>私は今回の研修を通して、患者さんのことを一番に考えるだけでなく、それを実行できるような歯科医師になりたいと思いました。慶熙大学病院では、最新の機械を取り入れることによって、短時間で治療を済ませて患者さんの負担を軽減したり、患者さんに優れた技術を提供したりすることを大切にされていました。また、検査で異常がなかったとしても、患者さんの不安を取り除かれたい場合には、相談に乗って安心してもらい、コミュニケーションを大切にしているとおっしゃっていました。患者さんを第一に考えることや、コミュニケーションを大切にすることは重要ですが、その気持ちがあっても実際に行動に移すことは簡単ではなく、その気持ちが目に見える形で患者さんに届けられるのは更に難しいことだと思います。慶熙大学病院では先生たちから患者さんを大切に思う気持ちがあらゆる場面で感じられたので、私もそのような歯科医師を目指したいと感じました。</p>	